

共産党の質問“さすが”

宮川道議に反響

北海道議会に衝撃が走りました。日本共産党の宮川潤道議が9月21日の代表質問で、震度7の大激震に見舞われた厚真町にある北海道電力の苫東厚真火力発電所の耐震基準が「震度5」相当だったことを高橋はるみ知事が「知らなかった」と答弁したのでした。

声が力に、地元で聞き取り調査

党道議団と宮川氏の元にも、「新聞を読みびっくり。知事の無責任な答弁にハラタツツ」“さすがの突っ込み”「知事はブラックアウト（全域停電）を招いた北電の企業方針に針の穴ひとつ問題意識がなかった」と続々とメールが。「他の議員の誰もできないもの。注目して『赤旗』を読みました」「やっぱり共産党はやるなあ」と手紙や電話が相次ぎました。

反響の大きさに背中を押された宮川氏は連日、道議会終了後、ただちに地元の東区にとんぼ返りしています。29日も区内を回って、市民から被災状況や要望を聞きました。8階建てマンションの6階に住む鳴海スミ子さん(73)。

地震発生当時、夫の勝利さん(76)が寝ていた居間のタンスが倒れました。勝利さんは一髪で命拾いました。「台所の棚から食器が落ち、片付けが大変でした。エ

レベーターが止まり、階段での水運びはきついわ、余震もあって、1週間震えていました。ストレスで夫は体調を崩してしまいました」とため息をつきました。「震度5を高橋知事が知らなかったというのは無責任で、とんでもない」と憤るスミ子さん。宮川氏は「道内の半分の電気をまかなっている苫東厚真が停止すれば、大規模停電が起きるのは想定できただけです。知事は公邸から飛び出し、道庁から北電に対策を打つよう迫るべきでした」と応じました。

党札幌東区地区委員会では、宮川氏と太田秀子、平岡大介両市議を先頭に、「国民の苦難軽減へいまこそ草の根の力を発揮しよう」と地域支部や党員が高齢者宅や不自由を抱えている障害者らの訪問を強めています。

「大きな被害はなかったけれど、夜は心細かった」と訴える1人暮らしの女性、60代の男性は「ブラックアウトは人災で、北電は道民に謝罪すべき。北電に何も対策を求めない知事が20%の節電を叫ぶとは何だ」と語気を荒らげました。

泊原発の外部電源喪失問題

知事「異常な事象に該当しない」

真下道議の追及

日本共産党の真下紀子北海道議は9月27日、道議会一般質問に立ち、北海道地震で北海道電力泊原発の外部電源が9時間半にわたって喪失した問題を追及しました。

7体の燃料がある使用済み燃料プールの冷却を続けることができませんでした。

被災時の高橋知事の対応が追及しました。

泊原発は6日、295万戸のブラックアウト（全域停電）によって、3系統6回線ある外部からの電源供給がすべて途絶えました。非常用電源が起動し、辛うじて152

真下氏は「重大事故の一手前であり、原発が稼働していれば緊急停止しなければならぬ重大インシデント（あるいは重大事故）」と強調し、高橋はるみ知事の認識を問いたりました。

高橋知事は「IAEA（国際原子力機関）の影響評価としては異常な事象には該当しない」と言い訳し、問題を過小評価しました。

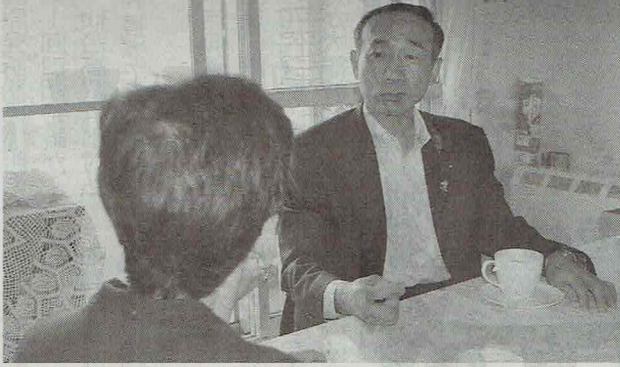
真下氏は「放射能の放出はなかったが、そうならかねない第一の防御を突破された。大丈夫だといわんばかりの答弁には驚くばかりだ」と批判した。

高橋知事は「私には登壇に地震に伴う被害と併せて報告があった」

から3時間以上にわたって原発の非常事態を把握していなかったことを認めた。



真下氏を質問する
9月27日、札幌市



宮川氏に被害状況を聞く
9月29日、札幌市東区

道と北電の責任を追及